

■石川ゲートウェイ拠点形成基本計画（案）に関するパブリックコメントにおけるご意見と回答

～ご意見ありがとうございます～

- 受付期間 : 令和6年2月20日（火）～令和6年3月15日（金）
- 受付人数 : 1人
- 意見数 : 7件

番号	ページ	ご意見・ご指摘	回答・対応
1	P8-7	住民意向では100件中闘牛については1件のみ。圧倒的にスポレク施設等が多いにも関わらず、闘牛メインの計画はおかしいのではないかと。集計の仕方も目玉になる施設や交流体験施設とひとくくりしているところが恣意的である。事業者意見も闘牛はPR次第と言っており、計画自体に無理がある。闘牛場がすでにあるから住民の意向を無視してでも押し進めようとしているのしか思えない。動物愛護・福祉は今や世界的潮流である。再び豚熱のような伝染病が発生する危険もあり、いつまでも続けられるものではない。闘牛メインの計画は白紙撤回すべきである。	闘牛はうるま市及び石川地域を代表する地域資源・観光資源であり、市の無形民俗文化財に指定されております。また、本市は「闘牛のまち」宣言をしており、「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進につなげ、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ります。石川IC周辺においては、交流拠点形成を図る上で、他にはない石川地域の地域資源として、闘牛を特徴の1つにしたいと考えております。
2	P8-19 17～30行目	「石川地域まちづくり推進計画」であげられた沖繩自動車道からの直接立ち寄れる施設の検討結果が3方法とも実現性がないというのは何ともお粗末な話である。推進計画自体抜本的に見直すべきである。拙速にことを進めると禍根を残すことになる。	3つの方法のうち、③については①・②と比較して実現性が高いものの、現時点においては利用者にとってのメリットが大きくないと認識しています。今後、沖繩自動車道の特別割引の状況が変わればメリットが大きくなることも想定されるため、今後の情勢によって活用を模索する旨を追記します。
3	P8-24 7～9行目	国道・県道沿いの現状森林部分は、多目的ドームの視認性を低下させているため、駐車場整備と合わせた造成・・・とあるが、貴重な森林（野鳥やホタル等が生息）は伐採せずにこれこそ子孫に残すべき。伐採をしドームがむき出しになったほうが、かえって景観を損ねる。	プロジェクトの推進にあたっては、現状の森林部分の植物や生物等の状況を把握し、整備内容を検討してまいります。
4	P8-24 22～24行目	施設間に位置する現状森林部分をなだらかな斜面に整備・・・石川岳を望める眺望を確保・・・これらも上記同様、現状を維持し、森林を保全すべきである。	プロジェクトの推進にあたっては、現状の森林部分の植物や生物等の状況を把握し、整備内容を検討してまいります。
5	P8-25	このプロジェクトは石川IC周辺交流拠点形成と銘打っているが結局、闘牛場の駐車場整備計画にすぎない。闘牛場さえなければ駐車場も必要なくなるし、無駄な税金を投入する必要もなくなり、自然環境も生活環境も守られる。いっそのこと石川庁舎周辺の整備計画に統合し、闘牛やその他のイベントにも使用できる多目的施設を設置したほうがよい。今話題になっているゴルフ場跡地への自衛隊訓練場建設計画がどうなるかわからないが、自衛隊施設ができれば多目的ドームから市民の森へ抜ける山道が自衛隊車両が往来する軍用道路として利用されるのは間違いない。今後の動き次第ではこのプロジェクトの計画自体に影響は避けられないだろう。その辺もきちんと見極めてもらいたい。	闘牛はうるま市及び石川地域を代表する地域資源・観光資源であり、市の無形民俗文化財に指定されております。また、本市は「闘牛のまち」宣言をしており、「闘牛のまち」をPRすることにより、うるま市の認知度向上及び来訪者の増加促進につなげ、闘牛文化の継承と観光・商工業の活性化を図ります。石川IC周辺においては、交流拠点形成を図る上で、他にはない石川地域の地域資源として、闘牛を特徴の1つにしたいと考えておりますが、多目的ドームについては、闘牛だけでなくその他のイベントにも利用しやすいよう設備等の機能強化を進めております。また、ゴルフ場跡地への自衛隊訓練場建設計画については、今後も国の動向を注視してまいります。
6	P8-26	 ・付近住民は闘牛大会のたび路駐と車両の通り抜けで迷惑を被っている。住宅地エリアへの車両進入の全面禁止と駐車禁止エリアの指定を強く望む。 ・多目的ドームを闘牛以外のコンサート等で活用していくのであれば、防音対策はしっかりとしてほしい。壁は筒抜けなので音楽イベント時の騒音はかなり酷い。	ご意見として承ります。闘牛大会時の車両侵入禁止等やコンサート等でのドーム内防音対策等は、関係機関や担当課へ、ご意見があった旨情報提供してまいります。
7	P10-1	・石川市時代からの庁舎、会館、体育施設のすべてを老朽化を理由に解体するのは納得がいかない。先の住民説明会やワークショップでも施設は改修して活用すべきという意見がほとんどであった。 ・全市的機能は市内1箇所に集約とは、どういうことか。合併時の約束はすべて反故にし、石川住民のことはないがしろにする市のやり方は納得がいかない。	うるま市公共施設等総合管理計画等では公共施設の配置の方針を示しており、その方針に基づき、集約・統廃合・維持等を進めて参りますが、今後も地域住民の皆様のご意向を把握しながら、地域毎に必要な施設や必要な公共サービス等のあり方を検討して参ります。